

# 令和 3 年度租税教育実践成果報告書

学校名 熊本市立下益城城南中学校

校長名 長尾 浩



## 1 令和 3 年度の実践計画

### (1) 租税教育推進のテーマ

租税の意義や役割について理解し、他者と学び合う租税教育を通して社会に関わる態度を育成する

### (2) テーマ設定の理由

本校の生徒の実態として、学習に対する意欲に差があり、学ぶ意義を自分なりに理解して学習に主体的に取り組む生徒もいれば、そうではない生徒が在籍しており、この差に大きな開きがある現状といえる。

そのような状況で、本校では多くの授業者が教え合い活動を授業に取り入れて、生徒同士が学び合う機会を設けている。多様な考えを持った生徒同士が意見を交流する中で、学習に対する意欲の差も解消することが期待できる。

また、学ぶ意義を理解できていない生徒の多くが、学習した内容と実生活との間に隔たりを感じているようである。社会がうまく機能するために不可欠な「税」について学び、考えることは、生徒にとって、学習が社会(実生活)とつながり合っていることを認識するために効果的であると考えた。

### (3) 実施計画

実践項目	予定期日	実践内容	備考
税の作品作成	8月	習字と作文	
税に関する アンケート	9月	税に関する意識調査	
財政教育 プログラム	9月	財務局職員による出前授業と 本校職員による事前学習	
税金落語	11月	笑福亭鉄瓶様の落語鑑賞	
一日税務課長体験	11月	熊本県県央広域本部を訪問 訪問の様子を生徒集会でプレ ゼン	
社会科授業実践	12月	3年公民的分野での授業実践	
税に関する アンケート	2月	租税教育の振り返り	
実践のまとめ	3月	実践報告書の作成	

## 2 令和3年度の実践内容

### (1) 財政教育プログラム

10月22日(金)に九州財務局の方をお招きして、財政に関する学習を第3学年対象で行った。

#### ①目的

日本の財政に対する関心を高め、社会問題に対して主体的に向き合う姿勢を養う。

受益と負担の両面性を理解し、多面的な見方ができるようにする。

## ②実施形態

事前授業は、「日本の財政を考えよう」という財務省から出ているパンフレットを活用して、本校職員で行った。「国の政治の仕組み」を学習している途中に、特設して授業を実施した。税に関する基本的な知識の定着と、次時の課題について個人思考を行った。

当日は、1クラス1時間ずつ授業を実施してもらった。生徒は、「みなさんは今日から財務大臣です。どのように税金を集めて、集めたお金をどのように使えば、日本の未来を良くできるか、ということを考えながらグループのみんなで国の予算案を作ろう」という学習課題のもと、タブレット端末を活用して、学習に取り組んだ。生徒は、目指す社会(テーマ)を自分たちなりに設定して、予算案作成にあたった。各グループが発表を行い、考えを共有する場面も設定した。



歳出・歳入を増減させ、  
予算案を作成していく



グループワークの様子



発表の様子

この班のテーマは  
「子どもたちに優しい社会」

## ③生徒の感想から

ニュースなどで消費税を上げるなど聞いてまだ上げるの?など思っていたけど、いろいろな調整をして借金を減らすためにはしょうがないことなんだと思いました。これから財政に関するニュースでも少しは内容がわかると思うので見てみたいです。

私たちが払っている税金は、全て私たちのために使われていて、教育や介護、医療などその他たくさんの方に役立てられていることを知りました。私が財務大臣になったらこんな社会にしたいから、税をこのくらい上げたい、と考えを深めることができ、税について考えることがとても楽しかったです。また他のテーマのグループの人たちの意見も聞いて、自分とは違う考えも改めて知ることができました。

#### ④取り組みを振り返って

当初は9月に実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で10月実施となった。学習進度から見ると、「国の政治の仕組み」を学習している時点での財政教育だったが、九州財務局の濱田様から最後に次のような言葉をいただいた。

「予算を最終的に決定するのは、国会での決議です。国会議員を選ぶのは、私たち国民です。国の財政に関心を持ち、選挙に参加していきましょう。」

生徒は国の政治を学ぶ上で、選挙の意義や課題について考えていた。授業で学習したことと財政教育プログラムが結びついたことが大変意義深かった。

### (2) 税金落語

公益財団法人熊本法人会や熊本県租税教育推進協議会のご協力のもと、上方落語の噺家である笑福亭鉄瓶様をお招きして、税金落語を実施した。

#### ①目的

日本の伝統芸能に触れながら税について楽しく学び、納税の意義を理解して税に関する関心を高める。

#### ②実施形態

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、第3学年のみ体育館で鑑賞し、第1・2学年は、教室からZOOMで視聴した。「相続税」を題材にした落語を披露していただいた。



#### ③生徒の感想から

「税金落語を見て、税に関するイメージが変わったか？」と問うと、7割以上の生徒が「変わった」と回答した。

・「変わった」と回答した生徒の理由

今までよりも、税を身近に感じるようになりました。また落語を聞いたので、明るいイメージになりました。

私たちが税金を払うことによって普段の生活が豊かになっているので、税金を払うことは大切だと思うようになりました。

・税金落語を鑑賞した感想

難しい税金の話を面白く落語で説明して聞いていて飽きませんでした。もっと税金のことを知って先のことを考えるようにしたいです。

落ちが面白かったです。面白い話を聞きながら税の学習ができて、楽しかったです。税に興味を持てたので、これからの社会のためにも、もっと詳しく税のことを知りたいと思いました。

④取り組みを振り返って

落語鑑賞をして生の伝統芸能に触れることができただけでなく、ワークショップも実施していただいた。コロナ禍で、このような体験学習の機会が減っていたので、生徒にとって貴重な時間になったようである。税を身近なものとして捉え、これからの生活や学習に活かしていこうとする意見が多く見られた。

(3) 一日税務課長体験

①目的

熊本県県央広域本部を来庁し、業務の説明を受け、簡易な事務の決裁、演習の体験及び職員との意見交流を通して、税に対する関心を高める。

体験の様子について集会で発信し、学校全体に取り組みを周知する。

②実施形態

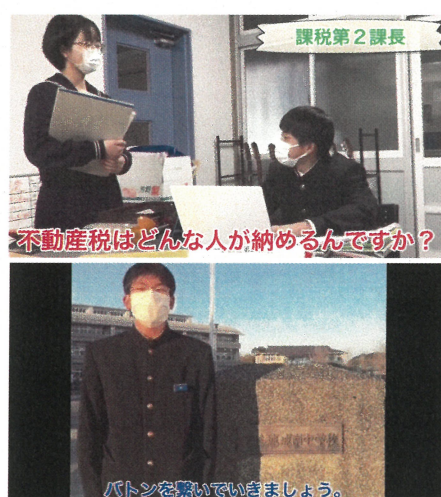
日程は右図の通りである。生徒会執行部が発足して間もない時期だったので、学校の代表として参加させ、動画にまとめて集会で発信する役割も担わせた。

時間	内 容	場 所
9:00	学校出発(タクシー2台)	正面玄関前
10:00	庁舎到着	本館13階特別会議室
10:10	委嘱状交付式 「一日収税第一課長」「一日収税第二課長」 「一日課税第一課長」「一日課税第二課長」	
10:25	部長あいさつ・自己紹介	
10:40	県央広域本部税務部の仕事の紹介 各課に着任 各課の業務の説明 各課において事務処理	新館1階の各課
11:10	※軽油分析演習	県央税務部会議室
11:45	記念撮影	本館13階特別会議室
11:50	意見交換・学校代表者(引率教諭)から挨拶	本館13階特別会議室
12:10	昼食	
12:30	退庁(タクシー2台)	
13:30	学校到着 体験・学びについてまとめる 一掃りの会で学識に展る	正面玄関前 会議室



### ③ 動画にまとめて集会で発信

体験したことを動画にまとめ、生徒集会で発信して、全校生徒への啓発活動を行った。参加生徒は、伝わりやすいように工夫を凝らしてニュース形式の動画を作成した。



動画のまとめでは、「納税には様々な人が関わっています。より良い社会を作っていくためには、全ての国民が、正しく納税することが最も重要です。みなさんも将来社会を支える人になるために、ちゃんと納税して、社会の一員として、次の世代へとバトンを繋いでいきましょう。」と締めくくり、租税への意識を高める内容となった。

## (4) 社会科授業実践 (第3学年)

### ① 単元について

公民的分野、第4章「私たちの暮らしと経済」4節「財政と国民の福祉」(東京書籍 p.162~169)を学習する中で、単元を貫く課題として、「『豊かさ』とは何だろうか?」と問い、財政に関する学習に踏み込んだ。

### ② 学習の目標

財政が私たちの生活に与える影響について考え、議論する活動を通して、財政の役割や課題についての理解を深め、租税に対する関心を持った態度を養う。

③学習の展開

	主な学習活動	形態	・教師の支援	備考
導 入	1 財政教育プログラムの学習を振り返る	一斉	・テキストを配布し、穴埋めをさせながら、学習した内容を確認する。	ロイロノート
	財政は、私たちの生活を豊かにしているのだろうか？			
	2 課題について自分なりの考えを持つ	個人	・生徒同士で意見交換をさせ、大まかな予想を立てさせる。	
展 開	3 財政の役割や課題について理解する	一斉 ペア	・資源分配の調整、所得の再分配、景気の安定化、市場経済における公正さの確保について、具体例を提示する。 ・公債残高の推移に関する資料を見せ、将来の及ぼす影響について考えさせる。	ロイロノート
	4 社会保障について理解する	一斉 ペア	・社会保障の4つの柱について説明し、社会保障費の増大する現状を確認する。	
	5 学習課題に関する考えをまとめる	ペア	・豊かにしていると考えた生徒は水色のテキストに理由を書かせ、豊かにしていないと考えた生徒はピンク色のテキストに理由を書かせ、提出させる。 ・机間指導しながら、さまざまな立場の意見に触れられるよう交流を促す。	提出箱へ提出
終 結	6 発表を通して、考えを共有する	全体	・異なった視点の考えを発表させ、多面的・多角的に捉えられるようにする。	
	7 振り返りシートを記入し、提出する	個人	・学習を通して、考えたこと、できるようになったこと、学習する中で生まれた疑問などを記させる。	振り返りシート

「『豊かさ』とは何か？」という問いに「財政」を結びつけることで、租税の役割と自分たちの生活を関連づけて考えられるように、課題設定を行った。

授業の後半部では、ロイロノートの提出箱に、立場を色分けした形で提出させることで、視覚的に違いを示した。生徒は、自分と違う立場の人の意見にも触れさせることで、多様な視点を獲得していくことにつながる。



「豊かにしている」生徒の提出物を見ると、税を公正という視点から捉え、必要性を感じて、考えを述べている。

豊かにしていると思います。

税金は高いけれども税金がなかったら救急車を呼ぶのにもお金がかかるし、治療費もより高くなるのでお金を持っていない人が自分の怪我を治すことができず、お金がある人は払えば治してもらえるので不平等な社会となり豊かと言えないから

社会保障を充実させるのはいいと思うけど、人口がこれから減り、その分税金など国民の負担が増えてしまうから。



「豊かにしていない」という意見は、人口減少と税負担の増加という二面性を捉え、資料を用いてまとめていた。

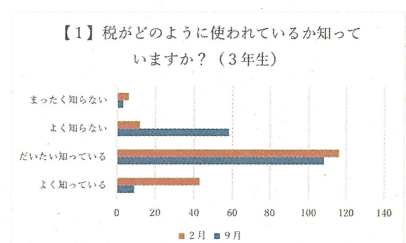
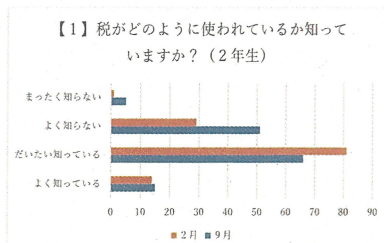
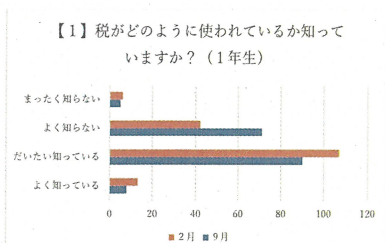
生徒の振り返りシートの記述には次のようなものがあった。

北欧の国は税率が高くても、国民の幸福度は高い。でも日本は税の負担が少なく、それよりも高い水準で福祉を受けられているのに、幸福度は低いからなぜだろうと疑問に思った。結局、日本人が税を払いたくない、でも保障は必要と考えているのではないか。また、貧困の格差を減らさないと、税率もあげられないと思う。

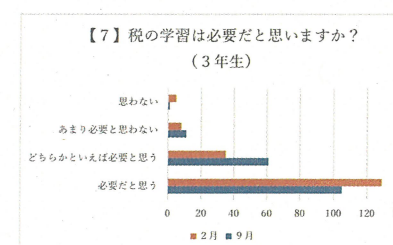
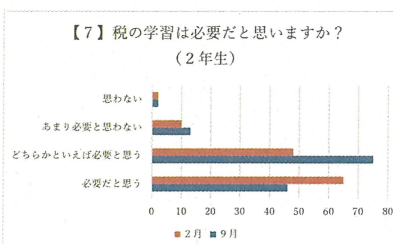
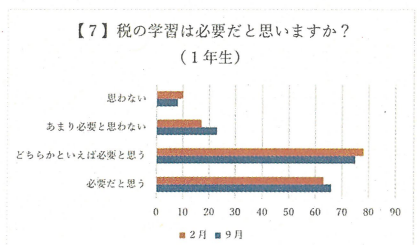
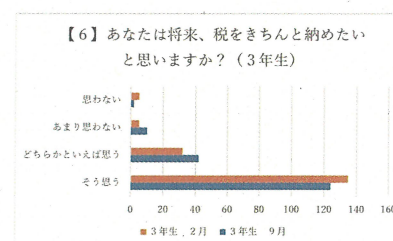
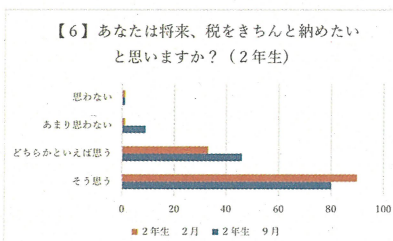
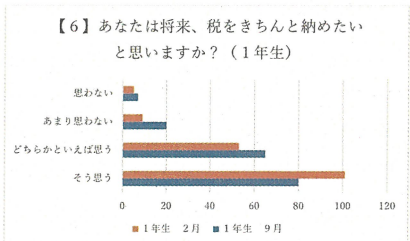
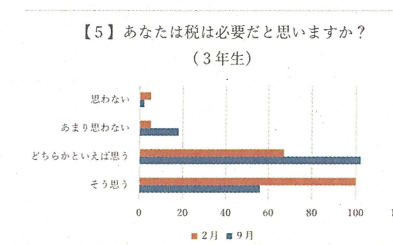
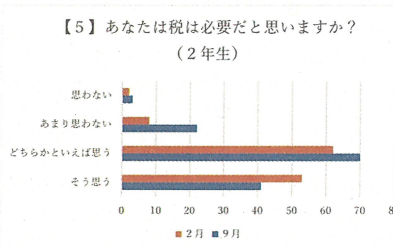
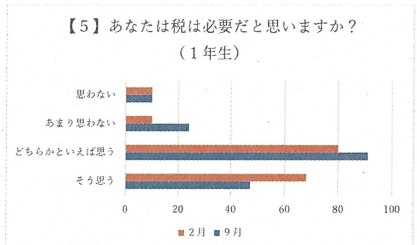
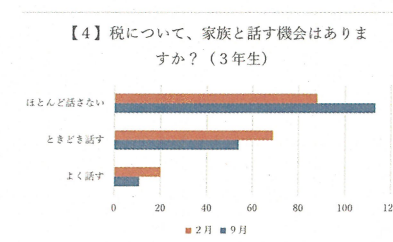
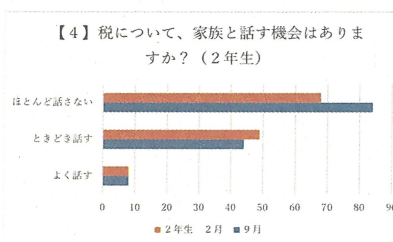
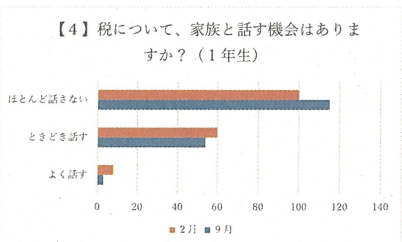
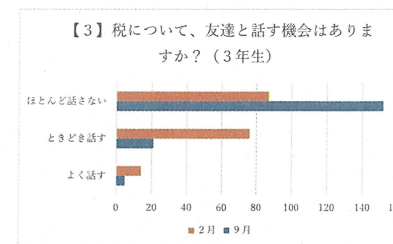
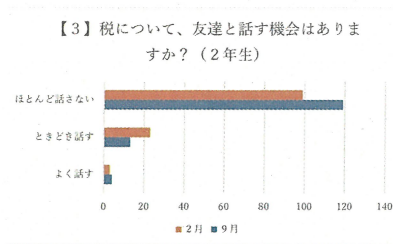
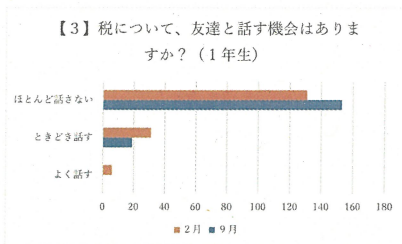
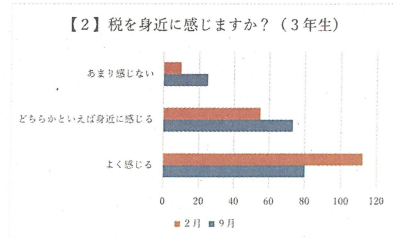
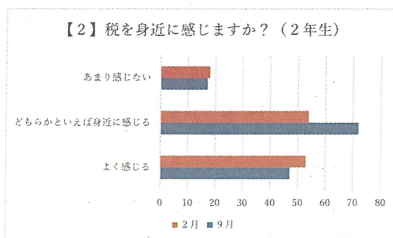
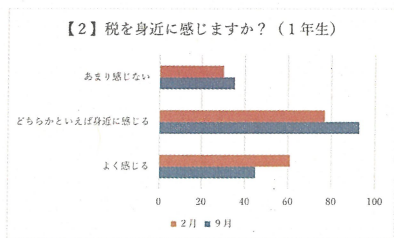
このように記述した生徒は、財政の学習を通して、自分なりに疑問を持つことになった。また、貧困など社会問題にも目を向けている。税についての理解を深めることが、実社会を見つめる視点につながったことは、授業実践する上で意義があるものと言える。

### 3 令和3年度の実践成果と今後の課題

#### (1) アンケートの結果







## （2）実践の成果

アンケートの結果を見ると、ほとんどの学年で各項目の数値の改善が見られた。学年ごとに見ると、取り組みが多くできた第3学年の数値改善の状況が良かった。記述式の回答では次のようなものが見られた。

今日本は少子高齢化が起こっていて、より福祉サービスなどを増やして改善していくために、まずは自分たちから税について知ることが大切だと思いました。（1年生）

消費税など税は自分たちの身近にあるもので、教科書なども税からできていたりするので、とても大切だと思う。自分も将来きちんと払いたい。（2年生）

安全で快適な生活をするのに税は必要不可欠だと思う。だけど、税を納めることが逆に私たちの生活を苦しめることもある。大きすぎる税はその分の見返りをもっと大きくする必要があると思う。（3年生）

どれも、社会が抱える問題や実生活と結びつけて、税に対する認識を深めている。特に第3学年になると、税についての理解を示しつつも、現状に批判的な考えを持つことができている。今ある状況を、より良い方向へ導く姿勢が見て取れる。このような考えが学年を超えて共有されることで、更なる効果が期待できるかもしれない。

新型コロナウイルス感染拡大により、さまざまな制限を受けての実践となったが、次年度以降も実践を継続して、学校全体で税についての関心を一層高め、租税教育を通して社会を見る目や社会問題について考える力を養っていきたい。

### （3）実践の課題

アンケートの結果を見ると、「あまり思わない」や「思わない」などの項目の数に目立った変化が見られないものも多い。また記述式の回答にも、否定的なものが少なくなかった。やはり、学習意欲に差がある本校の実態の改善とまではいかなかったことが課題である。

このように税に対する関心が低い生徒に対して、どのような手立てをとっていくか。必要な手立てとして2点あげたい。

一つは校内の組織づくりについてである。社会科だけでなく、他教科の学習や総合的な学習の時間等でも取り組みを推進していく必要性を感じた。校内研修を実施したり、各教科で情報交換をすることで、教科横断的な学びが生徒に提供され、より効果をもたらすのではないかと考える。

二つ目に、学び合いのさらなる充実である。教師が税の大切さを説くだけでなく、関心の高い生徒や低い生徒同士が意見を交わす場を設定し、生徒なりの問いを持って学びに向かう姿勢が育まれることで、税に対する認識や関心はさらに高まっていくものと考えている。